



星落秋風五丈原
土井晩翠
死せる孔明
生ける仲達を走らす



三国志



蜀の劉備とその側近



武侯祠



関林廟



関羽の首を埋めた



諸葛孔明の南方平定作戦

雲南省昆明 滇池



蜀の前線軍事基地定軍山

漢中



孔明の墓

A 五丈原

諸葛孔明が曹操の魏を北伐した。そして最後の第五次の北伐中に五丈原で陣没した。わたしは一月の寒い中を西安からバスで宝鶏市へいき、炎帝（神農さん）陵を参拝した翌日、マイクロバスで小さな村でおり、タクシーで高台についた。酷寒のこの季節に訪問者は一人もいなかった。孔明の武侯祠に参拝してから、「さて五丈原はどこか」と下界を見下ろしたがよくわからなかった。

ここからは見えなかったが、司馬仲達の魏陣はおそらく遙か北方の渭水の辺にあったのだろうと思った。



西安の宿舎に帰ってから、インターネットで調べてみた。すると、あの高台が五丈原だということがわかった。高台の狭いところは五丈しかなかったことからの命名だとのこと。たしかに、私が撮った石碑には「五丈原」とあった。日本の「原」には関ヶ原のような平地（平野）の原と、三方ヶ原のような高台・高原の原と二種類ある。私は五丈原を前者のイメージでとらえていたので誤解したのだ。

B 関林廟

西安市から東にある洛陽市は西安より古く多くの王朝の都だった。わたしは、墳墓博物館と北魏王朝の「龍門石窟寺院」を見学してから、関林廟を参拝した。呉との戦いに敗れた関羽は、呉によってその首を曹操に送られた。曹操は義に篤い武人関羽の人柄を愛して、彼の首を埋葬しそこを関林廟とした。

日本では菅原道真ゆかりの天満宮が京都北野天満宮を中心として全国の至る所にあるが、同じように、

関林廟もここ洛陽を嚆矢として全国にたくさんある。ただし、関羽は庶民から金儲けの神様として親しまれており、日本でもチャイナタウンに関林廟があるそうだ。



関羽の首塚がある洛陽の関林廟

C 漢中——孔明の墓

陝西省の南端で、四川省に接しているところが漢中である。そこは三国時代には、魏の領土に近い蜀漢国の防衛最前線基地であった。孔明は定軍山の麓で軍事訓練を行い、北伐に備えたという。しかし、第五次北伐で諸葛孔明は「五丈原」で陣没した。遺体は漢中に葬られ、今も魏への睨みを利かせているという。墓は土饅頭の盛り土でとても簡素だ。墓前の両脇には柏の木が植えられているが、もう 1,700 年も孔明を護り続けているので、今や鉄柱で支持しなければならないほど老朽化して痛々しい。なお、境内にもう一つ孔明の墓がある。どちらが本物の墓かはもうわからないそうだ（長安大院生の潘君と訪問）。



孔明の墓碑と背後の墓

D 孔明の南方平定作戦

吉川三国志によると、南方平定作戦では熱帯（雲南方面）への行軍で猖獗を極めたと書かれている。しかし、私が第五番目に赴任した昆明をはじめ雲南省のほとんどは高原地帯である。

滇池とよばれる広大な湖のある昆明は、夏暑からず、冬にはユリカモメが飛来する常春の国と言われている。



合肥の逍遙津

鎮江甘露寺における
劉備と孫権の妹との見合い



張遼の急襲で孫権危うく逃れる 魏の猛将



南京 石頭城

かつては長江の激流
が城壁を洗っていた

三國志



赤壁呉水軍



九江 煙水亭
周瑜水軍閱兵台



蘇州

虎丘

E 逍遙津

安徽省の省都合肥のあたりはしばしば魏と呉の激戦地だった。逍遙津もその一つで、魏の猛将張遼の奇襲で呉の孫権は河を馬とともに跳び越えて危うく難を逃れたことで有名。だが、現代の逍遙津公園の中には小川すら無かった。三国時代は、日本では倭の女王「卑弥呼」が生きていた頃（魏志倭人伝）なのだから、地形が変わってしまうのも無理はないだろう。



魏の猛将「張遼」の追撃
から逃げる呉の「孫権」

逍遙津を一っ飛び

F 鎮江の甘露寺

羅貫中の「三国志演義」が作り話であることは承知の上で、やっぱり訪れてみたい所が鎮江のここだ。この地で劉備は呉の孫権の妹と政略結婚をしようとした。見合いの情景を描く人形を見て三国志の世界に思いを馳せた。

曹操への勝利を祈念して刀を一振りすると岩が真っ二つ（作り話の「試剣石」がわざとらしく池の中にあった）。



G 南京石頭城

虐殺記念館や詩人杜牧ゆかりの秦淮河を訪れたついでに立ち寄った。呉は魏との戦いに備えて、奥の院「蘇州」から建業（南京）へ遷都した。城址は高い岩壁が露出しているだけであり、そばを秦淮河が流れていた。往時には長江の激流が河岸を洗っていたそうだが、1,700年も経つと河の流れも変わってしまうのだろう。

春に訪れたら桃の花が咲いていた。



H 赤壁の戦い

呉水軍の写真は無錫の「三国志テーマパーク」で撮ったものである。右は湖北省（武漢）と湖南省（洞庭湖に通ずる）の中間にある長江の「赤壁の戦い」の古戦場。中国では「南船北馬」と言われているように、騎馬隊などの陸軍が強い「魏」に対し、「呉」は水軍が強い。艦船の戦いであった「赤壁の戦い」で呉が圧勝したのは当然の帰結であったか。わたしは「赤壁」には行けずじまいに終わった。



写真はインターネット情報より

I 魏との赤壁の戦いに向けて

新都南京から長江を遡ると九江の港町がある。ここは赤壁の戦いに備えた呉水軍の訓練地であった。周瑜將軍の水軍訓練基地は九江（煙水亭）だけでなく鄱陽湖、また魯肅將軍の水軍基地洞庭湖がある。（了）

